



研究用試薬

## ヒストファイン

第一抗体

CD8モノクローナル抗体(ヒストステイナー用)

(動物種：マウス)

包装：60テスト(12mL)

Code：713201

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- 本品は、自動染色装置ヒストステイナー用の試薬 第一抗体である。
- 特異性および抗原分布：ヒト CD8 抗原と同等の分子量 32kDa の蛋白質と特異的に反応し、cytotoxic/suppressor T 細胞を染色する。
- クローン名：C8/144B
- 抗体のサブクラス：IgG1,  $\kappa$
- 製法：①免疫原・・・CD8 抗原の細胞内領域の C 末端にある 13 個のアミノ酸配列 (Lys-Ser-Gly-Asp-Lys-Pro-Ser-Leu-Ser-Ala-Arg-Tyr-Val) の Lys に Cys を結合したペプチドをサイロ グロブリン結合させたものである。  
②免疫法・・・免疫原で免疫した Balb/c マウスの脾細胞を用いて得た融合細胞(ハイブリドーマ) から抗体産生細胞を得ている。
- 由来：ハイブリドーマの培養上清より得ている。

## 1. 内容

第一抗体・・・CD8 モノクローナル抗体(動物種：マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と、0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1 バイアル中に 12mL を含む。

## 2. 使用目的

組織・細胞中の CD8 陽性ヒト T 細胞の染色

## 3. 切片の準備

前処理(抗原賦活化)として 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)を用いたオートクレーブ処理が必要である(裏面参照)。

■参考：組織の固定状況等により 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の代わりにヒストファイン 抗原賦活化液 pH9 (10 倍濃縮) (Code:415211)またはヒストファイン 抗原賦活化液 pH9 (調製済) (Code:415201)を用いたオートクレーブ処理をすることで、より良好な染色結果が得られる場合がある。

## 4. 使用方法

- 1) 他の試薬とともに試薬ラック(ヒストステイナー用)にセットし、染色を開始する。
- 2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

## 5. 染色方法の設定

反応時間を30分間とする。

## 6. 貯法

2-8℃保存。

## 7. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染を引き起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

試薬バーコードラベルを使用する場合は、自動染色装置ヒストステイナーのプログラムにバーコードラベル情報を入力する必要がある。本製品が未登録の場合は、下記データを入力(漢字のみ全角、他半角入力)し、登録すること。

専用ボトルに貼付されているバーコードラベル内の情報

試薬名	CD8モノクローナル抗体
試薬略称(10文字)	CD8-MM
バーコード	CD8-MM
時間(分)	30

## 8. 主要文献

(1) Mason, D. Y. et al : J. Clin. Pathol. 45 : 1084, 1992

### ■ 研究用としてのみ使用すること。

### ■ 切片の準備

1. 50℃で十分に湯伸ばした切片(3-4μm厚)をシランなどのコーティングスライド上に張り付け、37℃の恒温器内で16時間以上乾燥させる。
2. 脱パラフィン → 親水化 → PBS
3. 前処理(抗原賦活化)：オートクレーブ処理
  - ① 緩衝液(下記記載)を耐熱性バットに入れ、切片を浸す。
  - ② バットに蓋をする。蓋が取れないように輪ゴムでとめる。
  - ③ 120℃、20分間オートクレーブ処理する。
  - ④ 圧力が十分下がった後、バットごと切片を取り出す。
  - ⑤ バットの蓋をはずし、バットごと切片を常温に20分間以上放置し、ゆっくり熱を冷ます。  
※ オートクレーブ処理後は、バットおよび緩衝液等が高温になっている。これらを取り扱う際は、手袋等を使用し火傷に注意する。
  - ⑥ スライドを緩衝液から取り出し、PBSまたはバッファーでよくすすぐ(3分間ずつ容器を2度かえるか、または洗浄ピンを使用する)。

### ・ 10mM クエン酸緩衝液(pH6.0)の作り方

A液9mL+B液41mL+精製水450mL

A 液：0.1M クエン酸水溶液

クエン酸一水和物( $C_6H_8O_7 \cdot H_2O$ )2.1g/精製水 100mL

B 液：0.1M クエン酸ナトリウム水溶液

クエン酸三ナトリウム二水和物( $C_6H_5O_7Na_3 \cdot 2H_2O$ )14.7g/精製水 500mL

A 液、B 液は常温で保存可能である。ここから必要な時に調製する。

### ■ 参考：ヒストファイン 抗原賦活化液pH9(Code : 415201またはCode : 415211)を用いたオートクレーブ処理の場合 (おもて面の■参考参照)

#### ・ 抗原賦活化液pH9の作り方

・ Code : 415201 抗原賦活化液pH9 (調製済)は、そのまま用いる。

・ Code : 415211 抗原賦活化液pH9 (10倍濃縮)は、精製水で10倍希釈する。